

歴代会長

初代	窪寺 傳吉	(昭和29～昭和30)	五代	村上 仁	(平成8～平成13)
二代	加藤 寅吉	(昭和31～昭和40)	六代	高橋 英一	(平成14～平成21)
三代	窪寺 正雄	(昭和40～昭和58)	七代	根本 英昭	(平成22～現在)
四代	石原 美佐男	(昭和58～平成8)			

町会のあゆみ

本町会は、新井の東西南北の町会に隣接する部分を持つ真中の町会である。しかし、それよりも江戸時代より治眼薬師として有名な通称「おやくしさん」（新井山梅照院薬師寺）のある町会でもある。昭和29年11月、新井の各町会が組織化されたのを機に、窪寺傳吉氏を初代会長として創立、下水や汲取口の消毒、街路樹の薬剤散布、街灯の管理などをしてその第一歩を踏み出した。

特色ある活動

◆町会レクリエーション

昭和30年に入り、町会活動も活性化し、会員の福利厚生と親睦を目的に花見の会を計画、高尾山、相模湖方面に日帰りバス旅行を実施した。これが好評で翌年はバス二台を連ねる盛況となり、以来今日まで継続、毎年六月第一日曜日をレクリエーションの日としている。

◆金魚すくい大会

町会の少年育成事業 薬師公園大池（現在のひょうたん池）で金魚すくいを実施していたが、わんぱくプールが出来たのを機に、わんぱくプールの終了後に、町会のお年寄りと子供との緑陰ふれあい活動として今日まで継続されている。

◆新井薬師梅照院文化財保護防災訓練

わがまちの「おやくしさま」には有形無形の恩恵を多分に頂いている。町会、老人会、子供会等の活動の場は云うに及ばず、縁日、盆踊り、節分等の催しは、日本の伝統文化を身近に感じ、子供達のふるさと意識を育てている。この地域の文化財を守るのも町会の役割の一つとして、毎年役員総出で防災訓練に参加、文化財保護意識の高揚に努めている。

組織と日常活動

世帯数 1,643世帯

町内を東、中、西の3部に分け各部に理事を置く、会長、副会長、会計、会計監査、理事の構成で現在27名

近年マンション、アパートの増加と町会員の減少、お年寄り世帯の増加とこれまでの町会活動（会員相互の親睦、防火・防災、防犯、交通安全、青少年育成、清掃・資源回収等）に加え、お年寄りの見守り支援への要求があり、町内世帯の町会への加入促進と町会活動への若い町会員の参加を促し、地域の活性化をはかって行きたいと思ひます。



ふれあい金魚すくい大会